

機帆船

82167006 雨堤 智宏

19 世紀に入って船が大型化する、推進機関が機械になる、などのために木造の船では限界がきた。そのため、局部的に鉄材で補強した船が作られるようになる。1821 年には全て鉄材で作った鉄船アーロン・マンビー号が建造される。鉄船には登載量が多い、強度的に強いなどのメリットがあるため 1875 年には鉄船が主流になったが、1858 年に鋼が製造された後は鋼船が作られていき、鉄船の時代は思ったよりも短い。20 世紀には鋼船が主流となっている。

日本では鎖国中は大型船を作る必要が無かったが、開国以後に国力増大、防備力を強化するためオランダから積極的に造船、製鉄技術を吸収していった。長崎、横浜に製鉄所を作り、1890 年には横浜で日本初の鋼船が建造される。以後は外洋船、戦艦では鋼船が主流になるが、日本国内を結ぶ航路では機帆船と呼ばれる帆と補助に内燃機関を用いて進む木造船が利用されていた。今後機帆船の歴史についてまとめていきたいと思う。